

重要な特記事項.....	2
Siperian EJB クライアントの更新.....	2
Oracle WebLogic および IBM WebSphere の延期.....	2
インストールおよびアップグレード.....	3
作業を開始する前に.....	3
インストールまたはアップグレード前の手順.....	4
特定のロケールのオペレーショナル参照ストアの作成または更新.....	7
IBM 環境.....	7
Oracle 環境.....	8
JBoss 環境.....	8
Emergency Bug FixMDM 10.5 HotFix 4 に統合.....	9
10.5 HF4 で解消された制限事項.....	10
ビジネスエンティティを使用する Data Director で解消された制限事項.....	10
10.5 HF4 の既知の制限事項.....	10
MDM 10.5 HF4 の既知の制限事項.....	10
10.5 HF4 の累積的な既知の制限事項.....	11
MDM 10.5 HF4 の累積的な既知の制限事項.....	11
10.5 HotFix 3 で解消された制限事項.....	12
ビジネスエンティティを使用する Data Director で解消された制限事項.....	12
10.5 HotFix 3 の既知の制限事項.....	13
MDM 10.5 HotFix 3 の既知の制限事項.....	13
10.5 HF2 で解消された制限事項.....	13
サブジェクト領域を使用する Data Director の既知の制限事項.....	13
10.5 HF2 の既知の制限事項.....	14
MDM 10.5 HF2 の既知の制限事項.....	14
10.5 HF1 で解消された制限事項.....	15
ビジネスエンティティを使用する Data Director10.5 HotFix 1 で解消された制限事項.....	15
MDM Hub 10.5 HF1 で解消された制限事項.....	15
10.5 HF1 の既知の制限事項.....	16
MDM 10.5 HF1 の既知の制限事項.....	16

10.5 で解消された制限事項.....	16
MDM Hub で解消された制限事項.....	16
ビジネスエンティティを使用する Data Director で解消された制限事項.....	16
サブジェクト領域を使用する Data Director で解消された制限事項.....	17
プロビジョニングツールで解消された制限事項.....	18
ビジネスプロセス管理の解消された制限事項.....	18
サービス統合フレームワークで解消された制限事項.....	18
10.5 の既知の制限事項.....	19
MDM Hub の既知の制限事項.....	19
サブジェクト領域を使用する Data Director の既知の制限事項.....	20
ビジネスエンティティを使用する Data Director の既知の制限事項.....	20
プロビジョニングツールの既知の制限事項.....	22
ビジネスエンティティサービスの既知の制限事項.....	23

Informatica^(R) *Multidomain MDM* のリリースノートを読んで、改良点とサポートの変更点について確認してください。また、*Multidomain MDM* のリリースノートにはインストールおよびアップグレードの問題と回避策に関する情報も含まれています。

重要な特記事項

このセクションでは、バージョン 10.5 HotFix 4 の重要な特記事項について説明します。

Siperian EJB クライアントの更新

バージョン 10.5 HotFix 4 では、Siperian EJB Client に JBoss 7.x jar が必要です。

Siperian EJB クライアントの設定の詳細については、『サービス統合フレームワークガイド』を参照してください。

Oracle WebLogic および IBM WebSphere の延期

バージョン 10.5 HotFix 4 では、IBM WebSphere Traditional と Oracle WebLogic のサポートが延期され、使用できません。

IBM WebSphere

IBM WebSphere Traditional は、Java 17 および Jakarta EE 10 と互換性がないため、現在のリリースでは提供されていません。WebSphere のサポートは、IBM が Java 17 および Jakarta EE 10 互換バージョンをリリースするまで、次のリリースに延期されます。このようなバージョンが利用可能になった場合、Informatica は今後の MDM リリースで IBM WebSphere のサポートを拡張する予定です。

Oracle Weblogic

Oracle WebLogic は、現時点で Java 17 および Jakarta EE 10 をサポートするバージョンを利用することができないため、延期されています。対応する互換性のあるバージョンを Oracle がリリースするまでサポートは延期されます。Informatica は、このようなバージョンが利用可能になった場合に、今後の MDM リリースでサポートを提供する予定です。

ユーザーに対するアドバイス

- Oracle WebLogic または IBM WebSphere を使用している場合、リリース後に MDM 10.4 HotFix 4 にアップグレードすることはできません。
- MDM の現在のバージョンを引き続き使用するか、Java 8 をサポートし、Oracle WebLogic および IBM WebSphere との互換性が維持される MDM 10.5 HotFix 3 へのアップグレードを検討するかを選択することができます。

予定されている開発

- Informatica は、Java 17 および Jakarta EE 10 互換バージョンのリリース後、将来の MDM リリースで Oracle WebLogic および IBM WebSphere のサポートを提供する予定です。
- その後にサポートされる MDM バージョンが利用可能になった場合は、すぐにアップグレードすることができます。

インストールおよびアップグレード

Multidomain MDM には製品のインストールおよびアップグレードに関連する既知の制限事項があります。始める前に、これらの問題を確認してください。

作業を開始する前に

10.5 HotFix 4 リリースには、2 つのインストーラバージョンがあります。

アップグレードパスの確認

MDM サービスがインストールされていないマシンでバージョン 10.5 HotFix 4 を使用するか、または以前の MDM バージョンからアップグレードします。

10.5 HotFix 4 は、マシンに MDM サービスがインストールされていない場合はインストールできます。

インストールされている、以下に該当する以前の MDM バージョンからバージョン 10.5 HotFix 4 に直接アップグレードできます。

- 10.4（あらゆる HotFix を含む）
- 10.5（あらゆる HotFix を含む）

インストーラパッケージ

次のインストーラを使用して、10.5 HotFix 4 リリースにアップグレードできます。

Informatica_MDM_10.5_HF4_FOR_WINDOWS - フルインストーラ

フルインストーラには、Informatica Data Director パッケージ（非推奨）が含まれています。以前に Informatica Data Director をインストールしていた場合は、Informatica_MDM_10.5_HF4_FOR_WINDOWS インストーラを使用してアップグレードします。

Informatica_MDM_10.5_HF4_FOR_STD_WINDOWS - 標準インストーラ

標準インストーラには zds-gui.war パッケージは含まれていません。以前に Informatica Data Director なしの Entity 360 をインストールしていたは、Informatica_MDM_10.5_HF4_FOR_STD_WINDOWS インストーラを使用してアップグレードします。

インストールまたはアップグレード前の手順

既知の制限事項の中には、インストールまたはアップグレードの実行に影響を与える可能性のあるものもあります。発生する可能性のある問題を回避するには、次の問題を確認し、アップグレード前に回避策を完了します。次に、環境に特有なインストールおよびアップグレードの問題を確認します。

Hub Console セットアップ用の ZuluJDK のインストール

Oracle Java Runtime Environment (JRE) を使用している場合は、最新バージョンの MDM をインストールするマシンに Zulu JDK バージョン 17.0.10 または 17.0.11 をインストールします。

英語以外の環境での Hub サーバーのインストール

JDK 1.8.0_222 以降を使用して英語以外の言語で MDM Hub をインストールする場合、言語コードを入力する必要があります。

1. インストーラを起動するには、コマンドプロンプトを開き、Hub サーバーのインストールディレクトリに移動して、次のコマンドを入力します。

```
hub_install.exe -l <language code>
```

ここで、<language code>は優先言語です。言語コードは、言語が以下のいずれかである場合に使用します。

言語	言語コード
ポルトガル語	pt_BR
フランス語	fr
ドイツ語	de
日本語	ja
韓国語	ko
ロシア語	ru
簡体字中国語	zh_CN
スペイン語	es

(MDM-14224)

前提条件の検証をしない Hub サーバーインストール

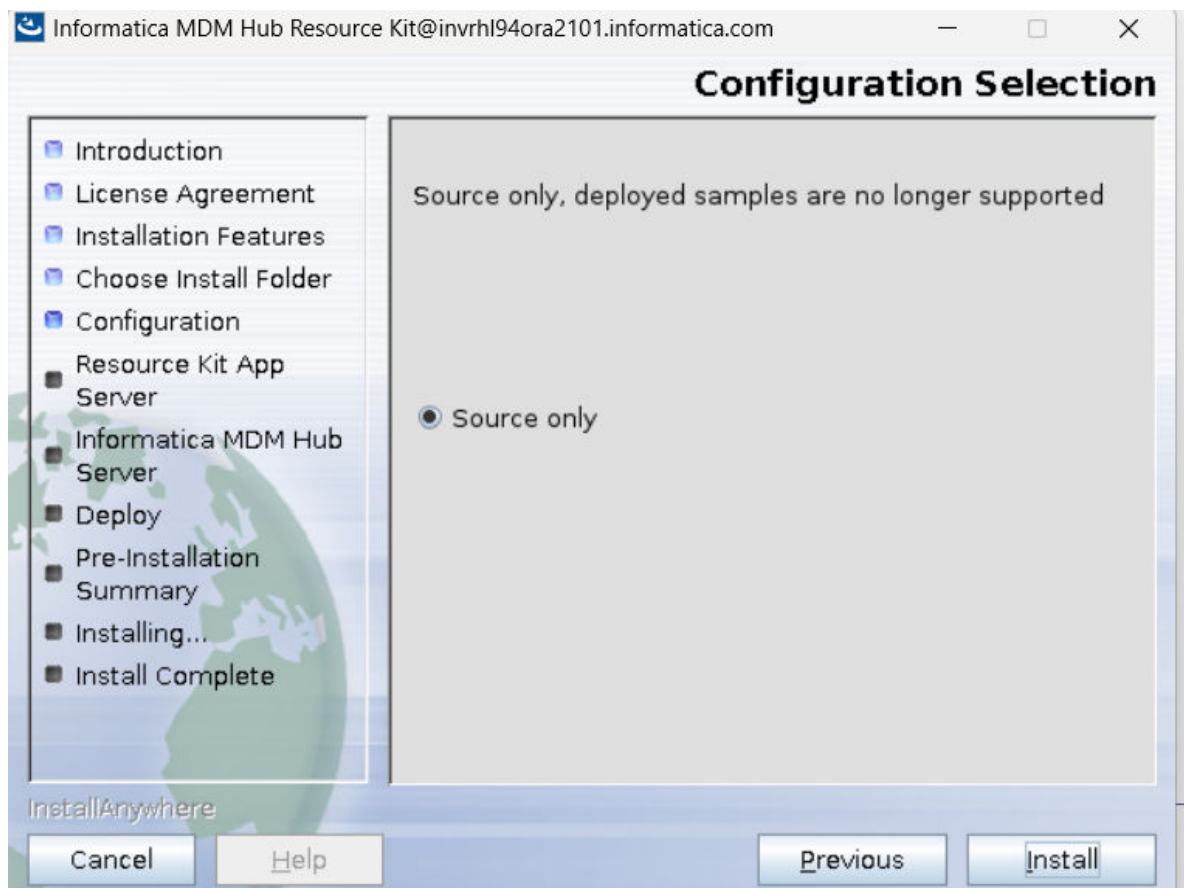
前提条件の検証なしで Hub サーバーのインストーラを実行する場合、データベースパスワードのプロンプトにダミーの値が必要です。

1. 前提条件の検証なしで Hub サーバーのインストーラを起動するには、以下のコマンドを実行します。
`hub_install.bin -DSIPERIAN_INSTALL_PREREQ_VALIDATION=false`
2. データベースパスワードが要求されたら、ダミーの値を入力します。
インストールが続行されます。ダミーの値を指定しないと、インストールが失敗します。
(MDM-10975)

Hub リソースキットのインストール

10.5 HotFix 4 では、リソースキットを使用してソースをデプロイおよびインストールできるようになりました。

次の画像は、デプロイおよびインストールするためのリソースキット設定選択オプションを示しています。



エンティティ 360 表示のアップグレードインストール

Hub サーバーをアップグレードする際、タイムアウトエラーのために entity360view.ear がインストールできないことがあります。

回避策: インストールコンポーネント、patchInstallSetup または postInstallSetup を再実行します。

または、<MDM Hub installation directory>/hub/server/bin フォルダから次のコマンドを実行します。

```
./sip_ant.sh -Dentity360view.ear.dodeploy=true deploy.entity360view-ear
```

Entity 360 フレームワークタスクマネージャの追加については、その『バージョン 10.0、10.1、10.2、または 10.3 からのアップグレード』ガイドを参照してください。

アップグレード階層

階層マネージャでリレーションをコピーしてそれらを階層リレーションとして作成する場合、リレーションループをコピーして、ルートビジネスエンティティにリレーションループを持つ階層を作成している可能性があります。しかし、Data Director はルートビジネスエンティティレベルでデータループがあるレコードの階層を表示できません。

例えば、組織階層で、Organization ルートビジネスエンティティから Organization ルートビジネスエンティティへのリレーションループが存在するとします。そのとき、Data Director では、Informatica レコードから Informatica レコードへのデータループが存在する場合、Data Director は Informatica レコードの階層を表示できません。

アップグレードする前に、階層マネージャでリレーションを確認し、あるビジネスエンティティから同じビジネスエンティティへのリレーションループがないことを確認してください。階層マネージャにリレーションループがある場合、アップグレード後に、リレーションの再構成が必要になることがあります。

回避策:

- 階層モデルのルートビジネスエンティティとして別のビジネスエンティティを追加します。
- 代わりに、リレーションをネットワークリレーションとして作成します。

階層のアップグレードの詳細については、*Multidomain MDM のアップグレードガイド*を参照してください。

(MDM-30963)

MDM アプリケーションサーバーのプロパティファイルの更新

Hub サーバーをアップグレードすると、MDM Hub サーバーでの JBoss EAP の最新バージョンへの自動更新が失敗します。

最新の MDM Hub サーバーにアップグレードする前に、次の場所にある cmxserver.properties ファイルで cmx.appserver.version プロパティをバージョン 8 に更新してください。

- infamdm\hub\cleanse\resources\cmxcleanse.properties
- infamdm\hub\server\resources\cmxserver.properties

例: `cmx.appserver.version=8`

特定のロケールのオペレーショナル参照ストアの作成または更新

`sip_ant` スクリプトを実行してオペレーショナル参照ストアを作成または更新すると、オペレーティングシステムのロケールを入力するように求められます。プロンプトにオペレーティングシステムのロケールが表示されない場合は、デフォルトのロケール `en_US` を選択します。

(MDM-31496)

IBM 環境

IBM AIX とともにインストールした場合、次の問題が Multidomain MDM に影響を及ぼします。

IBM AIX での Hub サーバーのインストール

Hub サーバーを IBM AIX 環境にインストールした場合は、`bash` シェルを使用します。

1. IBM AIX インストーラをダウンロードします。

2. 次のコマンドを実行します。

```
bash ./hub_install.bin
```

インストールが開始されます。

インストールプロセスの詳細については、『*Multidomain MDM のインストールガイド*』を参照してください。

(MDM-43730)

Oracle 環境

以下の問題は、Multidomain MDM が Oracle データベースまたは Oracle WebLogic とともにインストールされる場合に影響を与えます。

英語以外の Oracle および JBoss 環境での PostInstallSetup スクリプトの実行

英語以外のロケールで Oracle および JBoss の環境にインストールすると、インストールプロセス中は postInstallSetup スクリプトが実行されない。

回避策: インストール後に postInstallSetup スクリプトを実行して、EAR ファイルをデプロイします。詳細については、『*Multidomain MDM のインストールガイド*』を参照してください。(MDM-8731)

JBoss 環境

次の問題は、Multidomain MDM が JBoss およびデータベース環境とともにインストールされるときに影響を与えます。

JBoss EAP バージョン

MDM の最新バージョンにアップグレードする前に、既存の JBoss EAP をバージョン 8.0.0 にアップグレードするか、JBoss EAP 8.0.0 が存在しない場合はインストールします。

JBoss EAP のバージョンの更新の詳細については、『バージョン 10.0、10.1、10.2、10.3、10.4、または 10.5 からのアップグレード』ガイドを参照してください。

リモートトランザクションのための JBoss EAP 7.1 および JBoss EAP 8 でのセキュリティの有効化

JBoss EAP 7.1 および JBoss EAP 8 環境では、remoting-connector セキュリティが有効になっていない場合、リモートトランザクションが失敗します。

この問題を回避するには、remoting-connector セキュリティを有効にします。サポート対象の Elytron セキュリティフレームワークが設定されていることを確認します。詳細については、JBoss のバグ JBEAP-13963 および JBEAP-16149 を参照してください。

(MDM-28775)

JBoss EAP 8 での Data Director アプリケーションの展開

JBoss EAP 8 環境で MDM Hub をインストールまたはアップグレードすると、Data Director コンフィギュレーションマネージャでアプリケーションの展開ステータスが失敗と表示される。

Hub コンソールの Repository Manager ツールを使用して、オペレーショナル参照ストアが検証されていることを確認します。検証後、Data Director コンフィギュレーションマネージャを使用してアプリケーションを再展開します。

(MDM-24559、MDM-24415)

JBoss クラスタでのオペレーショナル参照ストアの登録

JBoss クラスタ環境でオペレーショナル参照ストアを登録できるようにするには、standalone-full.xml ファイルで<datasources>定義を設定します。

1. 次のディレクトリにある standalone-full.xml ファイルを開きます。
<JBoss Installation Directory>/standalone/configuration
2. <datasources>定義を設定して変更内容を保存します。

(MDM-10952)

JBoss EAP 7.3 環境でのシステムプロパティの設定

Cookie 値の切り捨てによって必要な資格情報が欠落したビジネスエンティティサービス要求の REST API 認証エラーを防ぐために、システムプロパティを設定する必要があります。必要に応じて、JBoss EAP 7.2 および 7.1 にこのプロパティを設定できます。

- 次のディレクトリにある standalone.conf ファイルを開きます。
UNIX の場合: <JBoss のインストールディレクトリ>/bin/
Windows の場合: <JBoss のインストールディレクトリ>\bin\
- 次の Java プロパティを設定します。
-Dio.undertow.cookie.ALLOW_HTTP_SEPARATORS_IN_V0=true

(MDM-35074)

Emergency Bug FixMDM 10.5 HotFix 4 に統合

Multidomain MDM の以前のリリースの緊急バグ修正（EBF）が、バージョン 10.5 HotFix 4 に統合されました。これらの EBF では、以前のリリースで見つかった問題に対する修正が提供されています。

バージョン 10.5 HotFix 4 の EBF の一覧については、次の Informatica Knowledge Base の記事を参照してください:

https://knowledge.informatica.com/s/article/FAQ-What-are-the-Emergency-Bug-Fixes-EBFs-merged-into-Informatica-10-5-HotFix-4?language=en_US&type=external

10.5 HF4 で解消された制限事項

10.5 HotFix 4 では、次の問題が修正されました。

ビジネスエンティティを使用する Data Director で解消された制限事項

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

参照番号	説明
MDM-47342	マッピングされた CodeValue を更新すると、次のエラーが発生する。 エラーが発生しました。CcodevalueView は更新されませんでした。SIP-50114: 要求内の値をビジネスエンティティに書き込むことができませんでした。要求内に、次の値のいずれかを指定してください: [[CodeValueDependencyHierarchy, CodeMappingHierarchy]].
MDM-47161	ExternalCall を使用してレコードに子エントリを追加した場合、レコードを保存して再度開くまで、子エントリが UI に表示されない。
MDM-47100	プロビジョニングで設定された関係において、子ルックアップフィールドの階層が親ルックアップフィールドの上にある場合、E360 でのクエリ検索で ArrayIndexOutOfBoundsException エラーが発生する。
MDM-46369	数値フィールドを検証した場合、新しいフィルタ値を使用してクエリを実行するまで、検証エラーがリセットされない。

10.5 HF4 の既知の制限事項

MDM 10.5 HF4 の既知の制限事項

以下の表に、10.5 HotFix 4 で見つかった既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-47551	Informatica Data Director サブジェクトエリアアプリケーションからログアウトすると、server.log ファイルに次の例外が記録される。 java.lang.IllegalStateException: UT010067: Servlet container does not permit session creation after response was committed.
MDM-47543	10.5 HotFix 4 インストーラを使用して ActiveVOS をインストールすると、インストールとデプロイが成功した後に、インストールで次の例外がスローされる。 SEVERE [AeException] (default task-1) Warning: probably need to use a type-specific null value for parameter 3! 回避策: この問題を解決するには、インストールスクリプトを実行した後、またはインストールスクリプトを使用してパッチを適用した後に Java Development Kit (JDK) 17 を最初にセットアップするときに、Web サービスを使用して新規または更新された Business Process Archive (BPR) を ActiveVOS サーバーにデプロイします。デプロイした後に、インストーラを再実行します。
MDM-45908	プロビジョニングツールで [ログアウト] オプションをクリックしても、シングルサインオンが有効なログアウト URL に UI がリダイレクトされない。

参照番号	説明
MDM-47587	[MDM サポートツール] ページで照合分析ツールを起動しようとする、次のエラーが表示される。 org.apache.jasper.JasperException: JBWEB004062: Unable to compile class for JSP
MDM-47549	IBM DB2 の互換性の問題により、Axis 2 の障害と JDBC トランザクションエラーが発生する。

10.5 HF4 の累積的な既知の制限事項

MDM 10.5 HF4 の累積的な既知の制限事項

以下の表に、以前のバージョンで見つかった既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-46407	空のフィールドの必須フィールドにフィルタを適用すると、次のエラーが表示される。 このフィールドを空白のままにすることはできません。
MDM-46341	孫レコードを削除すると、承認待ちのビジネスエントリレコードに既存の子参照または兄弟参照がある場合、子レコードが誤って削除される。
MDM-46340	電子アドレス参照に別の子参照を追加した後でも、その電子アドレス参照を持つ子参照を削除できない。
MDM-46336	タスクマネージャでフィルタを追加して「適用」をクリックすると、Data Director アプリケーションで「適用」ボタンが誤って無効になる。
MDM-45423	MDM のルックアップテーブルで参照ルックアップ値を更新しても、xref テーブルの外部キールックアップ値が更新されない。
MDM-45411	子レコードまたは兄弟レコードへの未送信の変更を兄弟ルックアップフィールドに反映できない。
MDM-45281	兄弟ルックアップフィールドが、編集可能なフィールドとして表示されるのではなく、「一致したレコード」タブと「相互参照」タブにリストとして誤って表示される。
MDM-45239	複数のオペレーショナル参照ストア（ORS）インスタンスが同じ Entity 360 アプリケーション名を共有している場合、ブックマークリンクにアプリケーションの選択ポップアップが表示される。
MDM-45175	循環兄弟関連付けルックアップで予期しないエラーが発生する。
MDM-45124	「兄弟ルックアップ履歴」タブに不正確な情報が表示される。
MDM-45115	兄弟ルックアップフィールドは必須として指定できる。
MDM-45106	子レベルまたは孫レベルで誤ったページ番号を指定すると、Informatica Data Director の Entity 360 フレームワークにエラーが表示される。

参照番号	説明
MDM-44930	タスクマネージャのリストビューで、カラム名を選択しないと、カスタム設定ポップアップで [左に移動] アイコンが誤って有効になる。
MDM-44914	メインのビジネスエンティティ画面に影響を与えずにフィルタフィールドをスクロールできない。
MDM-44893	[エクスポート] ボタンのツールチップが翻訳されない。
MDM-44840	タスクマネージャからレコードを開き、ブックマークを起動すると、想定したページではなく、ホームページに移動する。
MDM-44783	ブックマークが、Entity 360 の更新されたロケールで開かない。
MDM-44776	ホームページの別のブラウザでブックマークリンクを開くと、ランディングページから、[すべてのタスク] ではなく [割り当てられたタスク] に移動する。
MDM-44769	ブックマークがタスクの詳細とコメントセクションを保持できない。
MDM-44768	クエリページで、使用可能な保存済みクエリの一覧から検索された保存済みクエリが表示されない。
MDM-44766	ブックマークリンクを使用して [検索と置換] 画面にアクセスできない。
MDM-44755	別のオペレーショナル参照ストア (ORS) を選択すると、クエリフィールドには対応するフィールドデータが入力され、クエリ検索が自動的に開始される。

10.5 HotFix 3 で解消された制限事項

10.5 HotFix 3 では、次の問題が修正されました。

ビジネスエンティティを使用する Data Director で解消された制限事項

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

参照番号	説明
MDM-45951	クエリ検索結果をエクスポートする際に、Data Directory アプリケーションは、設定された日付形式でデータをエクスポートできない。
MDM-45363	ダウンロードした PDF のロシア語、中国語、日本語、韓国語ロケールのローカリゼーションを有効にできない。

10.5 HotFix 3 の既知の制限事項

MDM 10.5 HotFix 3 の既知の制限事項

以下の表に、10.5 HotFix 3 で見つかった既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-46407	空のフィールドの必須フィールドにフィルタを適用すると、次のエラーが表示される。このフィールドを空白のままにすることはできません。
MDM-46369	詳細クエリ検索の値を正しい値に更新した後も、以前の検証エラーが返される。
MDM-46341	孫レコードを削除すると、承認待ちのビジネスエントリレコードに既存の子参照または兄弟参照がある場合、子レコードが誤って削除される。
MDM-46340	電子アドレス参照に別の子参照を追加した後も、その電子アドレス参照を持つ子参照を削除できない。
MDM-46336	タスクマネージャでフィルタを追加して「適用」をクリックすると、Data Director アプリケーションで「適用」ボタンが誤って無効になる。

10.5 HF2 で解消された制限事項

Multidomain MDM には製品のインストールおよびアップグレードに関連する既知の制限事項があります。始める前に、これらの問題を確認してください。

サブジェクト領域を使用する Data Director の既知の制限事項

以下の表に、10.5 HotFix 2 で見つかった既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-36103	期間終了日が 9999 年 12 月 31 日の階層リレーションまたはネットワークリレーションを追加すると、期間終了日が空の値に変更される。同じ階層またはネットワークリレーションの期間終了日を編集して保存すると、変更が表示されます。

10.5 HF2 の既知の制限事項

MDM 10.5 HF2 の既知の制限事項

以下の表に、10.5 HotFix 2 で見つかった既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-45423	MDM のルックアップテーブルで参照ルックアップ値を更新しても、xref テーブルの外部キールックアップ値が更新されない。
MDM-45411	子レコードまたは兄弟レコードへの未送信の変更を兄弟ルックアップフィールドに反映できない。
MDM-45363	ダウンロードした PDF のロシア語、中国語、日本語、韓国語ロケールのローカリゼーションを有効にできない。
MDM-45281	兄弟ルックアップフィールドが、編集可能なフィールドとして表示されるのではなく、[一致したレコード] タブと [相互参照] タブにリストとして誤って表示される。
MDM-45239	複数のオペレーショナル参照ストア (ORS) インスタンスが同じ Entity 360 アプリケーション名を共有している場合、ブックマークリンクにアプリケーションの選択ポップアップが表示される。
MDM-45175	循環兄弟関連付けルックアップで予期しないエラーが発生する。
MDM-45124	[兄弟ルックアップ履歴] タブに不正確な情報が表示される。
MDM-45115	兄弟ルックアップフィールドは必須として指定できる。
MDM-45106	子レベルまたは孫レベルで誤ったページ番号を指定すると、Informatica Data Director の Entity 360 フレームワークにエラーが表示される。
MDM-44930	タスクマネージャのリストビューで、カラム名を選択しないと、カスタム設定ポップアップで [左に移動] アイコンが誤って有効になる。
MDM-44914	メインのビジネスエンティティ画面に影響を与えずにフィルタフィールドをスクロールできない。
MDM-44893	[エクスポート] ボタンのツールチップが翻訳されない。
MDM-44840	タスクマネージャからレコードを開き、ブックマークを起動すると、想定したページではなく、ホームページに移動する。
MDM-44783	ブックマークが、Entity 360 の更新されたロケールで開かない。
MDM-44776	ホームページの別のブラウザでブックマークリンクを開くと、ランディングページから、[すべてのタスク] ではなく [割り当てられたタスク] に移動する。
MDM-44769	ブックマークがタスクの詳細とコメントセクションを保持できない。
MDM-44768	クエリページで、使用可能な保存済みクエリの一覧から検索された保存済みクエリが表示されない。

参照番号	説明
MDM-44766	ブックマークリンクを使用して「検索と置換」画面にアクセスできない。
MDM-44755	別のオペレーショナル参照ストア（ORS）を選択すると、クエリフィールドには対応するフィールドデータが入力され、クエリ検索が自動的に開始される。

10.5 HF1 で解消された制限事項

Multidomain MDM には製品のインストールおよびアップグレードに関連する既知の制限事項があります。始める前に、これらの問題を確認してください。

ビジネスエンティティを使用する Data Director10.5 HotFix 1 で解消された制限事項

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

参照番号	説明
MDM-41145	アプリケーションの言語を zh_CN に設定している場合、NVDA スクリーンリーダーは「保存」ボタンと「キャンセル」ボタンの名前を中国語で読み上げない。この問題は、Tab キーを使用してこれらのボタンに移動したときに発生します。

MDM Hub 10.5 HF1 で解消された制限事項

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

参照番号	説明
MDM-41441	JBoss EAP 7.4.x 環境で、Data Director、プロビジョニングツール、および Hub コンソールでログインの問題が発生することがある。

10.5 HF1 の既知の制限事項

MDM 10.5 HF1 の既知の制限事項

以下の表に、10.5 HotFix 1 で見つかった既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-44418	エラスティック検索を 6.8.6 クライアントから 7.1.7 にアップグレードできない。 回避策: 10.5 より前のユーザーは、10.5 にアップグレードしてから HotFix を適用してエラスティック検索の問題を解決します。 アップグレード方法の詳細については、次のリンクを参照してください。 https://docs.informatica.com/master-data-management/multidomain-mdm/10-5/what-s-new-and-changed/part-1--version-10-5/10-5-what-s-new/elasticsearch-upgrade.html
MDM-44345	Weblogic の一般的な復号化に失敗する。 回避策: システムデータベースまたは ORS データベースを作成するときに、データベース照合名を設定します。 [Latin1_General_CI_AS]を[Latin1_General_CI_AS_UTF8]に変更します。

10.5 で解消された制限事項

Multidomain MDM には製品のインストールおよびアップグレードに関連する既知の制限事項があります。始める前に、これらの問題を確認してください。

MDM Hub で解消された制限事項

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

参照番号	説明
MDM-31423	複数の一致ジョブおよびマージジョブを実行するか、異なるベースオブジェクトに対してマージジョブを並行して実行すると、ジョブが失敗する。 回避策: 順番に一致ジョブおよびマージジョブを実行、またはジョブをマージします。
MDM-22528	クレンジングトランスフォーメーションマッピングからパラメータを削除して変更を適用すると、パラメータをマッピングに追加できない。

ビジネスエンティティを使用する Data Director で解消された制限事項

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

参照番号	説明
MDM-36491	タスクマネージャで、タスクコメントに特殊文字を追加すると、エラーメッセージが表示される。
MDM-36237	検索クエリの実行後にセッションがタイムアウトした場合、別のクエリを実行して検索結果を取得できる。
MDM-34272	レコードを追加すると、ルックアップフィールドにはデフォルト値が表示されても、依存するルックアップフィールドには値が自動的に一覧表示されない。
MDM-33548	タスクマネージャのリストビューに、[作成者] カラムが表示されない。
MDM-32729	レコードを追加すると、フィールドの複数のデフォルト値がフォームビューに表示されない。
MDM-26817	タスクインボックスで、タスクがデフォルトで作成日に基づいて並べ替えられない。

サブジェクト領域を使用する Data Director で解消された制限事項

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

参照番号	説明
MDM-35068	レイアウトに複数のビジネスエンティティビューが含まれている場合、レコードをコピーする際に保存するビューで [保存] をクリックする必要がある、複数のビューを保存することができない。
MDM-34230	このビジネスエンティティの更新イベントにワークフロートリガが設定されていない場合にのみ、ビジネスエンティティレコードに添付されたファイルを削除できる。ワークフロートリガが設定されている場合、添付ファイルを削除するオプションが使用できない。
MDM-34064	一部のルックアップフィールドが、xml2be マッピングのグループトランスフォーメーションでルックアップとして表示されない。それらのルックアップを機能させるには、手動で更新する必要がある。 回避策: 出力フィールドにルックアップ名を入力します。
MDM-34056	Data Director で、[履歴] ビューの日付と時間の形式が [データ] ビューおよび [タイムライン] ビューの日付と時間の形式と一致しない場合がある。
MDM-32140	[ネットワーク] ビューで、「ビジネスエンティティレコード」でなく、「サブジェクト領域レコード」という用語が使用されている。
MDM-23745	40 を超える値を持つルックアップリストを含むカラムをソートすると、ソートが失敗する。

参照番号	説明
MDM-23092	複数のタブを使用してレコードを作成し、 [適用] ボタンをクリックすると、レコードが保存されない。
MDM-18665	<p>[ステータスコード] コードを削除するときに、次のエラーが発生する。</p> <p>Cannot read property 'taskId' of undefined</p> <p>回避策: このフィールドは、編集はできますが削除はできません。</p>

プロビジョニングツールで解消された制限事項

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

参照番号	説明
MDM-22531	<p>読み取り専用フィールドに複数のデフォルト値を設定すると、プロビジョニングツールが検証エラーを表示する。</p> <p>回避策: クレンジングジョブを使用して、読み取り専用フィールドにデフォルト値を設定します。</p>

ビジネスプロセス管理の解消された制限事項

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

参照番号	説明
MDM-22986	ActiveVOS をインストールするときに、管理者ユーザーパスワードが ActiveVOS インストールプロパティファイルにプレーンテキストで保存される。

サービス統合フレームワークで解消された制限事項

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

参照番号	説明
MDM-30069	削除されたレコードを POST Update API を使用してリストアする場合、BVT 計算がトリガされず、リストアされたレコードの値が正しくない。
MDM-25396	Red Hat JBoss EAP 7.1 以降を使用する環境で ExecuteBatch SIF 呼び出しを実行できない。 回避策 SiperianConnection.properties ファイルで java.naming.factory.initial プロパティを次の値に設定します。 org.wildfly.naming.client.WildFlyInitialContextFactory

10.5 の既知の制限事項

MDM Hub の既知の制限事項

以下の表に、10.5 で見つかった既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-43465	コマンドラインから Hub サーバーとプロセスサーバーをインストールした場合、WebLogic Server 管理ユーザーのパスワードがコマンドラインでマスクされない。
MDM-42279	WebLogic 環境でレポート API を実行すると、レポートの実行が失敗し、次のエラーメッセージが表示される。 {"status": "FAILED", "jobId": "SVR1.7XHW", "errorCode": "SIP-10338", "errorMessage": "SIP-10338 : 内部サーバーエラー: \{0\} Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。 回避策: cmxserver.properties ファイルを開いて、activevos.jndi プロパティを次の値に更新します。 jdbc/ActiveVOS
MDM-36851	一致ジョブを実行すると、実行時例外が発生することがある。アプリケーションサーバーの起動ログを調べて、例外を確認してください。 回避策: 一致ジョブが完了するまで待ちます。
MDM-36438	STRP テーブルが破損している場合、あいまい一致中に一致ジョブが失敗することがある。 回避策: cmxcleanse.properties ファイルを開き、cmx.server.match.ignore_exceptions プロパティを追加して true に設定します。一致ジョブが引き続き失敗する場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

サブジェクト領域を使用する Data Director の既知の制限事項

次の表に、既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-43285	ルックアップフィールドのデフォルト値がレコードビューレイアウトから削除されると、変更の適用に失敗する。
MDM-36145	アプリケーションサーバーとクライアントのタイムゾーンが異なる場合、ネットワークリレーションの開始日と終了日にアプリケーションサーバーとクライアントサーバーで異なる値が表示される。
MDM-27340	一致ジョブを実行して一致したレコードをプレビューすると、レコードが横に並んだ状態でプレビューが表示されないことがある。

ビジネスエンティティを使用する Data Director の既知の制限事項

以下の表に 10.5 で見つかった既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-43714	ビジネスエンティティビューとタスクマネージャの [ナビゲーション] メニューに、子レコードが承認待ちかどうかが表示されない。
MDM-43699	無効な日付を使用してレコードの詳細ページで子レコードをフィルタリングすると、すべての子レコードが返される。
MDM-43698	ビジネスエンティティビューで、数値フィールドの値に基づいて子レコードをフィルタリングすることができない。
MDM-43631	階層ウィジェットを持つユーザーインターフェースレイアウトで組織レコードを作成すると、次のエラーが発生する。 SIP-10228: 指定された RecordKey のレコードが見つかりません。 回避策: レイアウトから階層ウィジェットコンポーネントを削除します。
MDM-43535	無効な値を含む住所の子レコードを検証すると、別のフィールドで検証エラーが発生する。
MDM-43532	承認ワークフローを使用する環境にレコードをインポートすると、タスクマネージャのタスクタイトルに、設定されたタスクタイトルと一致しないタイトルが表示される。
MDM-43433	タスクマネージャでタスクをリリースした後に、どのタスクに対しても、承認、却下、エスカレートなどの他のタスクアクションを実行できなくなる。これらのタスクアクションのボタンは無効になります。
MDM-43414	[一致するレコード] ビューに 10 件以上の候補が表示された場合、[すべて選択] オプションを使用してもすべての候補が選択されない。

参照番号	説明
MDM-43410	ファイルインポートに使用するマッピングからビジネスエンティティを削除しても、インポートジョブによって、削除されたビジネスエンティティのレコードがインポートされる。
MDM-43407	異なるビジネスエンティティに対して複数のレコードを作成し、それらのレコードを保存しようとする、ユーザーインタフェースが応答しなくなることがある。
MDM-43400	履歴や一致するレコードなどのレコードビューのナビゲーションペインで複数回クリックを行なうと、パフォーマンスが低下する。
MDM-43398	詳細な「一致したレコード」ビューを使用して、住所などの重複する子レコードを持つレコードを結合すると、通常とは異なる動作をすることがある。プレビューが生成された後に、マージ用に選択した子レコードのチェックボックスをオフにすることができます。マージされた子レコードを再度プレビューしようとする、チェックボックスが無効になります。
MDM-43285	ルックアップフィールドであるフィールドのデフォルト値を削除した後で子レコードに変更を適用すると、次のエラーが表示される: SIP-50022: 検証に失敗しました。
MDM-42811	ドラフトの状態のレコードを開こうとすると、次のメッセージが表示される。 ビジネスエンティティの設定が変更されました。一部のフィールドはドラフトに表示されない場合があります。
MDM-42696	フォームビューで子レコードをフィルタリングするためのフィルタ値を入力して Enter キーを押すと、 【クエリの検索】 ダイアログボックスが表示される。 回避策: 【クエリの検索】 ダイアログボックスを閉じます。
MDM-42604	MDM Hub を JBoss 環境にインストールし、Data Director アプリケーションにログインすると、entity360view.log に Entity 360 からのログメッセージが含まれない。
MDM-42486	階層リレーションを追加し、開始日と終了日を入力した後、リレーションを編集すると時間に異なる値が表示される。 【適用】 をクリックしてリレーションを編集した場合のみ発生します。
MDM-42319	タイムラインビューで、 【開始】 フィールドと 【終了】 フィールドを使用して日付を編集することができない。
MDM-42154	2 つのビジネスエンティティが同じ基本オブジェクトを使用している場合、誤ったビジネスエンティティビューでドラフトレコードが開かれることがある。
MDM-42029	プロビジョニングツールでラベルが定義されていないビジネスエンティティに属するレコードを開くと、ラベルが未定義として表示される。

参照番号	説明
MDM-41653	[検索結果] ページに表示されるレコードをプレビューした場合に、ページを切り替えて孫レコードを表示すると、レコードが表示されなくなる。
MDM-40924	日付と時間フィールドに値を設定しようとする、秒を選択するオプションが時間ピッカーに表示されない。 回避策: 秒が表示されるようにするには、フィールドに秒の値を入力します。
MDM-40722	サブジェクト領域とビジネスエンティティを使用する環境で、エンティティビューの【データ】タブからレコードが開く。【データ】タブでレコードを編集し、すでに開いているレコードのエンティティビューを表示しようとする、ページにエラーが表示されます。
MDM-40089	階層リレーションの作成時に、フィールド、ルックアップフィールド、およびビジネスエンティティルックアップフィールドのデフォルト値が表示されないことがある。変更の送信後に、ルックアップフィールドのデフォルト値を表示できても、フィールドおよびビジネスエンティティルックアップフィールドのデフォルト値を表示することができない。
MDM-36061	類似するレコードをレコードビューのレコードと比較すると、類似するレコードのルックアップフィールドの値が表示されないことがある。この問題は、レコードのビジネスエンティティとそのビューの間の直接変換を設定した場合に発生します。
MDM-32251	ルートビジネスエンティティノードの下の子ノードで検索可能なフィールドを設定すると、スマート検索データの初期インデックス処理バッチジョブが失敗する。 次のエラーが発生します。 SIP-10322: ORA-00904: "<カラム名>": 無効な識別子。

プロビジョニングツールの既知の制限事項

以下の表に 10.5 で見つかった既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-40909	Boolean フィールドを含むビジネスエンティティスキーマを生成し、プロビジョニングツールにログインすると、無効な設定エラーが発生することがある。エラーを修正しようとすると、Boolean フィールドの詳細が XML ファイルから消えます。 回避策: エラーを修正した後に、Boolean フィールドの詳細を XML ファイルに追加します。

ビジネスエンティティサービスの既知の制限事項

次の表に、既知の制限事項を示します。

参照番号	説明
MDM-35489	スラッシュ (/) を含む検索用語を使用してフィールド検索を実行すると、検索が失敗する。 次のエラーが発生します。 "errorCode": "SIP-50100", "errorMessage": "SIP-50100: カスタムビジネスエンティティサービスステップにエラーがあります。"